

(2) ナ シ

〔果樹類>落葉果樹>仁果類>なし〕

① 防除のポイント・注意点

| 病害虫名 | 防除時期 | 摘 要 |
|-----------------|--|--|
| 黒 斑 病 | 幼 果 期 | ・「二十世紀」では袋かけ直前に薬剤を散布し、防除後は時間を空けないで袋かけを行う。 ・5月下旬～6月は感染最盛期なので、7日おきに防除し、梅雨時期には展着剤を必ず使用する。 |
| 黒 星 病 | 脱 苞 期 ～ 開 花 前 | ・りん片がずれ始めた頃に薬剤を散布すると効果が高い。 |
| | 幼 果 期 ～ 果 実 肥 大 期 お よ び 収 穫 期 | ・春先に降雨が多く、低温の年は多発する。 ・防除が必要なときは雨の止み間や少雨でも防除する。 ・9～10月は秋季発生期であり、収穫期間中でも使用基準を守って薬剤散布する。 |
| | 収 穫 後 | ・休眠期防除参照 |
| | [耕種的防除] | ・病斑がついている枝や芽は切り取り、園外で焼却処分する。 ・欄外参照 |
| 赤 星 病 | ・開花直前～ 5 月 上 旬 | ・多発園では初発期とさらにその1週間後に散布する。 |
| | [耕種的防除] | ・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。 |
| 輪 紋 病 (いぼ皮病) | 剪定整枝時 及び病患部 削り取り直後 | ・枝幹部のいぼにトップジンMペーストを塗布して、いぼからの胞子飛散を封じ込める。 |
| | 6 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬 | ・摘果直後・梅雨期・果実肥大後期が防除適期である。 |
| 胴 枯 病 | 剪定(整枝)時及 び病患部削り取 り 直 後 | ・せん定直後の切り口にトップジンMペーストまたはバッチレート塗布する。 ・特に「幸水」は予防効果が高い。 ・生育期にも病患部の早期発見に努め、見つけ次第、病患部を大きめに完全に削りとり、その傷あとおよび周辺部に十分塗布する。 |
| 白 紋 羽 病 欄外参照 | 収穫30日前 ま で | ・休眠期処理では、根を露出させ病患部切除後に薬剤をかん注する。 ・生育期処理では、土を掘り返さず、かん注器により土壤に注入する。 |

| 病害虫名 | 防除時期 | 摘 要 |
|--|--|--|
| カメムシ類 | 5 月 中 旬 ～ 9 月 上 旬 | ・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害するため、常に発生動向に注意する。 |
| ナシグンバイ | 5 月 下 旬 ～ 6 月 中 旬 | ・夏から秋にかけて高温、乾燥が続く年は発生に注意する。 |
| ヤガ類 (果実吸汁蛾類) | [被害時期] 7 月 中 旬 ～ 収 穫 期 | ・幼虫が山林原野で発育し、成虫が夜間のナシ園に飛来して果実を吸汁する。近くに山林原野があると被害を受けやすい。 ・ナシを加害するヤガとしてアケビコノハ、フクラスズメ、ナシケンモンがある。 |
| | [耕種的防除] | ・薬剤による防除法はなく、多目的防災網等でナシ園全体を被覆し、成虫の侵入防止をはかる。 ・忌避効果のある黄色灯を設置し、夜間に点灯する。 |
| アブラムシ類 | 5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬 | ・展葉期には葉の薬害が発生しやすいので注意する。 |
| カイガラムシ類 | 5 月 上 旬 ～ 7 月 中 旬 | ・特に春先の発生に注意する。 ・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。 ・ 休眠期防除参照 |
| クワコナ カイガラムシ | | |
| コナカイガラムシ類 若 齢 幼 虫 | 7 月 上 旬 ～ 中 旬 | |
| | [コナカイガラムシ類の耕種的防除: バンド誘殺法] | ・9月下旬までに主枝や垂主枝にクラフト紙を巻きつけ、12月～2月に取り外して焼却、駆除する。 |
| ナシホソガ (ナシノカワモグリ) | 6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬 | ・6月下旬から7月上旬頃の越冬世代成虫発生最盛期を中心に防除する。 |
| シンクイムシ類 | 7月上旬～中旬 | ・「豊水」では、さらに8月中～下旬の間に2回薬剤防除を行う。 |
| ナシヒメシンクイ | 成虫発生初期 | ・性フェロモン剤は、ディスペンサーを細枝などに巻き付け、圃場内で均一になるように設置する。晩生品種には残効が及ばないことがあるので、8月中旬に50本/10aを追加で設置する。 |
| | [耕種的防除] | ・被害枝、被害芽は切除後に焼却する。 |
| ハマキムシ類 | 5 月 中 旬 ～ 6 月 下 旬 | ・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。 |
| ハダニ類 欄外参照 ハダニ類(続き) | [耕種的防除] | ・雑草中で増殖を繰り返すので草刈りを励行する。なお、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・9月中旬に樹幹部にコモ等をまきつけバンド誘殺する。 |
| | 休眠期防除参照 | |
| ニセナシサビダニ 欄外参照 | 5 月 上 旬 ～6月上旬 | ・本種はナシの徒長枝先端部の新葉に寄生して吸汁加害するほか、増殖すると葉にさび症状を呈する被害を発生させる。被害葉は褐変、変形し、被害が進行すると早期に落葉する。 ・被害の発生程度には品種間差があり、「二十世紀」など葉に繊毛の多い品種で著しい。 ・ 休眠期防除参照 。 |

② 黒星病防除

発生の特徴

- ・9月以降の罹病落葉とりん片病斑が伝染源となり、翌年の3月中旬頃から5月下旬頃にかけて降雨のたびに胞子が飛散し伝染する。その後、病斑上に形成された分生子は降雨時に分散して伝染を繰り返す。
- ・開花直前から開花後約2週間までに降雨日が多いと感染が増大する。
- ・葉・葉柄・りん片・花そう基部・果実・新梢に発病する。もっとも感受性が高い「幸水」では、満開40日後頃には感受性がいったん低下するが、その後再び徐々に高まり、満開75～90日後に最盛期に達する。

防除法

- ・もっとも重要な防除時期は、開花直前から開花後2週間までであり、この時期の薬剤防散布を徹底する。
- ・落葉は、集めて土中に埋めるか焼却する。乗用草刈機での粉碎、ロータリーでの粉碎、すき込みも効果がある。
- ・りん片および芽基部の病斑は、開花直前までに切除する。
- ・施肥量の適正化とともに風通し・日当たりを良くして、健全な樹に育てる。

③ 白紋羽病防除

発生の特徴

- ・春季の発芽が遅れ、新梢伸長が悪くなる。葉色はやや淡くなり、果実は小玉傾向となる。
- ・花芽の数が多くなり、秋季の紅葉、落葉が早くなる。
- ・地上部にこのような症状が出た樹の根を掘り上げてみて、根に真っ白い菌糸が扇状に密着している場合は、白紋羽病と診断される。

防除法

- ・上記のような特徴が一見して分かる場合は、防除が困難な場合が多いので、園内をよく見回り早期発見、防除に努める。
- ・重症の樹では休眠期処理とし、樹の周囲の半径1m、深さ15cm程度の土を掘り上げ、根を露出させる。病根を除去した後、薬剤かん注し、埋め戻す土と薬液がよく混ざるようにしながら埋め戻す。
- ・軽症樹や重症樹の隣接樹では、生育期に土壌かん注器を用いて、薬剤をかん注処理する。

④ ハダニ類、ニセナシサビダニの防除

ダニ剤の特性と使用上のポイント

- ・前年多発した園では休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。
- ・ハダニ類は繁殖が早く、高密度になると防除が困難になるので、発生初期に薬剤散布する。
- ・多発園では5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。
- ・浸透移行性がない薬剤は、かけ残しのないように葉の表裏に丁寧に散布する。
- ・成虫に対する防除効果がない薬剤は、薬剤の効果発現には10日程度を要する。

ナシ【殺菌剤】

RPA

| 作物名 | 薬剤名 | 農薬の種類 | RAC | 毒劇 | 使用時期 | 使用回数 | 使用量 | 使用方法 | 適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率） | | | | | | | | |
|-----|--------------------------|--------------------------------------|-----------|----|--------------|----------|-------------------------------|------|-------------------|----------------|-------------|-----------------|------------------|-----|------|-----|----------------|
| | | | | | | | | | 黒星病 | 黒斑病 | 傷口の ゆ合促進 | 赤星病 | 切り口及び傷 口のゆ合促進 | 胴枯病 | 白紋羽病 | 輪紋病 | |
| なし | ICボルト [®] -48Q | 銅水和剤 | M1 | | 収穫後～ 開花前 | - | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 30倍 | | | | | | | | |
| なし | アキサ-フロアブル | ジフェノコナゾール・フルキサビロキサト [®] 水和剤 | 3,7 | | 収穫14日 前まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 2000倍 | 2000倍 | | 2000倍 | | | | | 2000倍 |
| なし | アリエッティC水和剤 | キャブタン・ホセチル水和剤 | M4,P7 | | 収穫14日 前まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | | 400～800 倍 | | | | | | | 400～800倍 |
| なし | アントラコール顆粒水和剤 | プロビネブ [®] 水和剤 | M3 | | 休眠期 | 1回 | 300～400 ^g / 10a | 散布 | | 250倍 | | | | | | | |
| | | | | | 収穫45日 前まで | 4回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 500倍 | 500倍 | | 500倍 | | | | | |
| なし | インダ-フロアブル | フェンコナゾール水和剤 | 3 | | 収穫7日前 まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 5000～ 12000倍 | | | 8000～ 12000倍 | | | | | 5000倍 |
| なし | オーシャイン水和剤 | オキサボコナゾールフルマ酸塩水和剤 | 3 | | 収穫前日 まで | 5回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 3000～ 4000倍 | 2000倍 | | 3000～ 4000倍 | | | | | |
| なし | オキシラン水和剤 | キャブタン・有機銅水和剤 | M1,M 4 | | 収穫3日前 まで | 9回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 500～600 倍 | 500～600 倍 | | | | | | | 500～600倍 |
| なし | オンリーワンフロアブル | テブコナゾール水和剤 | 3 | | 収穫前日 まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 2000～ 4000倍 | 2000倍 | | 2000～ 4000倍 | | | | | 2000倍 |
| なし | カナメフロアブル | インビルキサム水和剤 | 7 | 劇 | 収穫前日 まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 4000～ 8000倍 | 4000倍 | | 4000～ 8000倍 | | | | | 4000倍 |
| なし | キノド-水和剤80 | 有機銅水和剤 | M1 | | 収穫3日前 まで | 9回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 1200～ 2000倍 | 1200～ 2000倍 | | | | | | | 1200倍 |
| なし | キノド-顆粒水和剤 | | | | 収穫3日前 まで | 9回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 1000倍 | 1000倍 | | | | | | | |
| なし | ジマンダ [®] イセン水和剤 | マンゼブ [®] 水和剤 | "UN(I*) | | 収穫30日 前まで | 5回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 400～600 倍 | 400～600 倍 | | 400～600 倍 | | | | | 400～600倍 |
| なし | スクレアフロアブル | マンデストロピ [®] ン水和剤 | 11 | | 収穫前日 まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 2000～ 3000倍 | | | | | | | | 2000～3000 倍 |
| なし | スコア顆粒水和剤 | ジフェノコナゾール水和剤 | 3 | | 収穫14日 前まで | 3回 以内 | 200～700 ^g / 10a | 散布 | 2000～ 4000倍 | 2000倍 | | 2000～ 4000倍 | | | | | 2000倍 |

| 作物名 | 薬剤名 | 農薬の種類 | RAC | 毒劇 | 使用時期 | 使用回数 | 使用量 | 使用方法 | 適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率） | | | | | | | |
|-----|---------------|--------------------|------|----|----------|------|--|------|-------------------|------------|-------------|------------|------------------|-----|------|------------|
| | | | | | | | | | 黒星病 | 黒斑病 | 傷口の ゆ合促進 | 赤星病 | 切り口及び傷 口のゆ合促進 | 胴枯病 | 白紋羽病 | 輪紋病 |
| なし | ストロビートライフロアブル | クレスキシムメチル水和剤 | 11 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 3000倍 | 2000～3000倍 | | | | | | 2000～3000倍 |
| なし | セルカディスDフロアブル | ジチアノン・フルキサピロキサド水和剤 | 7,M9 | 劇 | 収穫60日前まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 1500倍 | 1500倍 | | 1500倍 | | | | |
| なし | チオノックフロアブル | チウラム水和剤 | M3 | | 収穫30日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 500倍 | 500倍 | | 500倍 | | | | |
| なし | テランフロアブル | ジチアノン水和剤 | M9 | 劇 | 収穫60日前まで | 4回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 1000倍 | 1000倍 | | 1000倍 | | | | 1000倍 |
| なし | トキリンフロアブル | 有機銅水和剤 | M1 | | 収穫3日前まで | 9回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 1000倍 | 1000倍 | | | | | | 1000倍 |
| なし | トップジンMペースト | チオファネートメチルペースト剤 | 1 | | 【A】 | 3回以内 | | 塗布 | | | | | 原液 | | | |
| | | | | | 【B】 | | | | | 原液 | | | 原液 | | 原液 | |
| なし | トリフミン水和剤 | トリフルミゾール水和剤 | 3 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 2000～3000倍 | | | 2000～3000倍 | | | | |
| なし | トレノックスフロアブル | チウラム水和剤 | M3 | | 収穫30日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 500倍 | 500倍 | | 500倍 | | | | |
| なし | ナリアWDG | ピラクロストロビン・ホスカリド水和剤 | 11,7 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 2000倍 | 2000倍 | | | | | | 2000倍 |
| なし | ネクスターフロアブル | イピラザム水和剤 | 7 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | 1500～3000倍 | 1500倍 | | 1500～3000倍 | | | | 1500倍 |
| なし | バシタック水和剤75 | メプロニル水和剤 | 7 | | 収穫60日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{L}}$ /10a | 散布 | | | | 500～1000倍 | | | | |
| なし | バツチレート | 有機銅塗布剤 | M1 | | 【C】 | 3回以内 | | 【Z】 | | | 原液 | | | 原液 | | |

| 作物名 | 薬剤名 | 農薬の種類 | RAC | 毒劇 | 使用時期 | 使用回数 | 使用量 | 使用方法 | 適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率） | | | | | | | |
|-----|--------------|-------------------|-------------|----|----------|------|--|------|-------------------|------------|---------|------------|--------------|------|------------|------------|
| | | | | | | | | | 黒星病 | 黒斑病 | 傷口のゆ合促進 | 赤星病 | 切り口及び傷口のゆ合促進 | 胴枯病 | 白紋羽病 | 輪紋病 |
| なし | パレード1570アブル | ピラジフルミド水和剤 | 7 | | 収穫前日まで | 2回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 2000～3000倍 | 2000倍 | | 2000～3000倍 | | | | 2000～3000倍 |
| なし | ファンタジスタ顆粒水和剤 | ピリベンカルブ水和剤 | 11 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 3000～4000倍 | 3000～4000倍 | | | | | | 3000～4000倍 |
| なし | フルーツセイバー | ペンチオヒラド水和剤 | 7 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 1500～3000倍 | | | 1500～3000倍 | | | | |
| なし | フロンサイトSC | フルアジナム水和剤 | 29 | | 収穫30日前まで | 1回 | 100～200 $\frac{\mu\text{L}}{\text{樹}}$ | 土壌灌注 | | | | | | | 1000倍 | |
| | | | | | | | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 2000～2500倍 | 2000～2500倍 | | | | | 2000倍 | |
| | | | | | | | 50～100 $\frac{\mu\text{L}}{\text{樹}}$ | 土壌灌注 | | | | | | 500倍 | | |
| なし | ベルコート70アブル | イミノタジソアルベシル酸塩水和剤 | M7 | | 収穫14日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 1500倍 | 1500倍 | | | | | | 1500倍 |
| なし | ベルコート水和剤 | | | | 収穫14日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 1000～1500倍 | 1000～1500倍 | | | | | 1000～1500倍 | |
| なし | ポリベリン水和剤 | イミノタジソ酢酸塩・ポリリン水和剤 | "[-](I*),M7 | | 収穫14日前まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 1500倍 | 1500～2000倍 | | | | | | 1500倍 |
| なし | ミギ720アブル | イプフルフェノキン水和剤 | 52 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 2000～4000倍 | | | | | | | |
| なし | エニックス顆粒水和剤47 | シプロジニル水和剤 | 9 | | 収穫21日前まで | 3回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | 2000倍 | 1000～2000倍 | | | | | | |
| なし | ロブテール水和剤 | イプロジオン水和剤 | 2 | | 収穫14日前まで | 5回以内 | 200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ | 散布 | | 1000～1500倍 | | | | | | |

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後、

【B】 剪定整枝時及び病患部削り取り直後、

【C】 剪定時及び病患部削り取り直後

使用方法：【Z】 剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布

| 作物名 | 薬剤名 | 農薬の種類 | RAC | 毒劇 | 使用時期 | 使用回数 | 使用量 | 使用方法 | 適用病虫害名/使用濃度（希釈倍率） | | | | | | | | | | |
|----------|-------------|----------------|-----------|----|------------|------|--------------|------|-------------------|------------|------------|-----------|---------------|-------------|------------|-------|------------|------------|------------|
| | | | | | | | | | アブラムシ類 | カイガラムシ類 | カメムシ類 | クワコカイガラムシ | コナカイガラムシ類若齢幼虫 | シクイムシ類 | ナシグンハイ | ナシホガ | ニセナシバタニ | ハダニ類 | ハマキムシ類 |
| なし | ニソラン水和剤 | ヘキシチアゾクス水和剤 | 10A | | 収穫7日前まで | 1回 | 200～700g/10a | 散布 | | | | | | | | | | 2000～3000倍 | |
| なし | パーマチオン水和剤 | フェンパレート・MEP水和剤 | 1B,3A | 劇 | 収穫30日前まで | 5回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 1000～2000倍 | | 1000～2000倍 | | | 1000～2000倍 | 1000倍 | 1000倍 | 1000～2000倍 | | 1000倍 |
| なし | ハチハチフロアブル | トルフェンピラト水和剤 | "21A(*) | 劇 | 収穫30日前まで | 1回 | 200～700g/10a | 散布 | 2000倍 | | | 2000倍 | | | | | 2000倍 | | |
| なし | パロックフロアブル | エトキサール水和剤 | 10B | | 収穫14日前まで | 2回以内 | 200～700g/10a | 散布 | | | | | | | | | | 2000倍 | |
| なし | ピラニカ水和剤 | テブフェンピラト水和剤 | "21A(*) | 劇 | 収穫14日前まで | 1回 | 200～700g/10a | 散布 | | | | | | | | | 1000倍 | 1000～2000倍 | |
| なし | フェニックスフロアブル | フルベンジアミド水和剤 | 28 | | 収穫前日まで | 2回以内 | 200～700g/10a | 散布 | | | | | | 4000倍 | | | | | 4000～6000倍 |
| なし | ベストガード水溶剤 | ニテンピラム水溶剤 | 4A | | 収穫14日前まで | 3回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 1000～2000倍 | | 1000～2000倍 | | | | | | | | |
| なし | マトリックフロアブル | クマフェンピラト水和剤 | 18 | | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700g/10a | 散布 | | | | | | | | | | | 1000～2000倍 |
| なし | モスピラン顆粒水溶剤 | アセタミプリド水溶剤 | 4A | 劇 | 収穫前日まで | 3回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 2000～4000倍 | 2000～4000倍 | 2000～4000倍 | | | 2000～4000倍 | | 4000倍 | | | |
| なし(無袋栽培) | スミチオン水和剤40 | MEP水和剤 | 1B | | 収穫21日前まで | 6回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 800～1200倍 | | 800～1000倍 | 800～1200倍 | | 800～1200倍 | 800～1000倍 | | | | 800～1200倍 |
| なし(有袋栽培) | | | | | 収穫14日前まで | | | | 800～1200倍 | | 800～1000倍 | 800～1200倍 | | 800～1200倍 | 800～1000倍 | | | | 800～1200倍 |
| なし(無袋栽培) | スミチオン乳剤 | MEP乳剤 | 1B | | 収穫21日前まで | 6回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 1000～2000倍 | | 1000倍 | 1500倍 | | 1000倍 | 1000倍 | 1000倍 | | | 1000倍 |
| なし(有袋栽培) | | | | | 収穫14日前まで | | | | 1000～2000倍 | | 1000倍 | 1500倍 | | 1000倍 | 1000倍 | 1000倍 | | | 1000倍 |
| 日本なし | ダイアジン水和剤34 | ダイアジン水和剤 | 1B | 劇 | 収穫14日前まで | 6回以内 | 200～700g/10a | 散布 | 1000～1500倍 | | | | 1000～1500倍 | 1000倍 | 1000～1500倍 | | | | 1000～1500倍 |
| 果樹類 | ナシメコン | リフルア剤 | - (7E) | | 成虫発生初期から終期 | | 50～100本/10a | 【A】 | | | | | | 50～100本/10a | ←ナシメコンクイ | | | | |

使用方法：【A】ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。